

2-4 調査成績（花き）

花きの部 No. 1

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7~8月出荷) (新規：令和4年度~令和5年度)

1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7~8月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 11号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) は種年月日 令和4年2月18日
 - 3) 定植年月日 令和4年4月15日
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 5) 定植株数
 - 6) 施肥量 2,720 本/棟
N-P-K-Mg=0.96-0.08-0.40-0.16 kg/a
(基肥) アルガ 215 (12-1-5-2) : 8.0 kg/a
 - 7) 使用資材
 - 8) 遮光・遮熱期間 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
 - 9) 収穫時期 令和4年7月4日~8月17日
 - 10) 薬剤散布 令和4年7月26日~8月17日
 - 11) 保温 21回(成分回数)
内カーテン(令和4年4月15日~5月16日)

(3) 調査区の構成

1) 調査区 15区(1区10株、1区制)

2) 供試品種	No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>		ピュアホワイト	中早生	大	白	(株)ミヨシ
<2>		ホヤージュ2型イエロー-ver3	中生	大	黄	(株)サカタのタネ
<3>		ホヤージュ2型ブルー-ver.2	中生	大	濃紫	(株)サカタのタネ
<4>		ボン・ホヤージュ2型パピヨン	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<5>		ソロPFブルーピコティ-ver.2	中生	小	白紫	(株)サカタのタネ
<6>		ジュリアスイロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
<7>		エグゼググリーン	中生	大	緑	カネコ種苗(株)
<8>		ブラックハート	中生	中大	濃紫	タキイ種苗(株)
<9>		マイコ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
<10>		プリマ3型イエロー	中晩生	大	黄	タキイ種苗(株)
<11>		パール3型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<12>		セラフ3型コスメ	中晩生	大	桃	住化農業資材(株)
<13>		エレガンスグリーン	中晩生	大	緑	住化農業資材(株)
<14>		フィノホワイト	中晩生	中小	白	カネコ種苗(株)
<15>		PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ

(4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

春先の気温が例年に比べ高く推移し、地温を確保できたこともあり、生育期序盤は株張りが良く順調であったもの、連作障害により中盤以降草丈の伸長が進まず、短小開花してしまう品種が一部見られた。

病害虫の発生は見られなかった。

(2) 開花

採花時期は、7月26日から8月17日、盛期は8月3日から8月13日となった。

開花が最も早かったのは「ピュアホワイト」、最も遅かったのは「PFダブルスノー」で、概ね早晩性どおりの開花となった。

(3) 切花品質

切花長では、「エグゼググリーン」で最も長く 83.5 cmであった。
茎径では、「セレブ 3 型コスメ」、「フィーノホワイト」、「PF ダブルスノー」が同値で最も太く 7.1mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「エグゼググリーン」、「プリマ 3 型イエロー」、「セレブ 3 型コスメ」、「フィーノホワイト」については、草丈伸長が良く、他品種に比べ茎が硬く太いため首曲がり等も少なかった。

「ジュリアスイエロー」については、樹勢が強くボリュームは出るものの、ブラッシングの発生が散見された。

「ソロ PF ブルーピコティ」、「PF ダブルスノー」については、生育の揃いが良いためロスが少なく、また、無花粉の品種であるため花持ちが良いことや汚れにくいこと等から、今後安定した需要が期待される品種であると考えられる。

(4) 次年度以降の計画

継続

表 1 採花期

品種名	早晩性	花径	採花期	
			(開始～終了)	(盛期)
<1> ヒュアホワイト	中早生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<2> ホヤージュ2型イエロー-ver. 3	中生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<3> ホヤージュ2型ブルー-ver. 2	中生	大	7/28 ~ 8/ 9	8/ 5
<4> ホン・ホヤージュ2型ヘビートンク	中生	大	7/28 ~ 8/ 5	8/ 3
<5> ソロPFブルーピコティ-ver. 2	中生	小	8/ 3 ~ 8/14	8/11
<6> ジュリアスイエロー	中生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<7> エグゼググリーン	中生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<8> ブラックハート	中生	中大	7/29 ~ 8/ 8	8/ 4
<9> マイコ	中晩生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<10> プリマ3型イエロー	中晩生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<11> ベール3型ラベンダー	中晩生	大	7/26 ~ 8/ 5	8/ 3
<12> セレブ 3 型コスメ	中晩生	大	8/ 3 ~ 8/14	8/10
<13> エレガンスグリーン	中晩生	大	8/ 1 ~ 8/11	8/ 9
<14> フィーノホワイト	中晩生	中小	8/ 8 ~ 8/15	8/13
<15> PFダブルスノー	晩生	中	8/ 8 ~ 8/17	8/13

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ヒュアホワイト	70.8	67.5	48.4	8.5	33.0	5.9	4.3	3.4	3.8
<2> ホヤージュ2型イエロー-ver. 3	65.7	54.7	42.3	7.6	35.4	5.6	4.7	2.7	4.1
<3> ホヤージュ2型ブルー-ver. 2	67.7	59.4	44.2	8.2	25.4	6.1	3.7	3.6	3.2
<4> ホン・ホヤージュ2型ヘビートンク	71.9	63.8	48.0	8.9	29.4	6.7	5.0	4.3	4.7
<5> ソロPFブルーピコティ-ver. 2	71.3	56.6	45.7	8.7	26.2	5.2	6.0	8.3	7.9
<6> ジュリアスイエロー	80.3	66.9	51.6	9.0	39.3	6.4	4.2	4.0	3.5
<7> エグゼググリーン	83.5	83.8	68.6	9.1	34.0	7.0	4.3	4.8	5.4
<8> ブラックハート	68.3	57.0	41.3	6.7	27.5	5.6	3.2	3.6	3.2
<9> マイコ	73.3	63.6	48.5	7.9	29.2	6.4	3.1	3.3	3.3
<10> プリマ3型イエロー	81.0	76.1	59.3	7.4	32.1	6.6	4.5	4.6	6.0
<11> ベール3型ラベンダー	66.8	58.6	44.2	6.7	30.7	5.8	3.1	3.3	3.8
<12> セレブ 3 型コスメ	80.6	85.6	67.6	10.1	34.3	7.1	4.9	5.0	4.9
<13> エレガンスグリーン	78.5	70.3	52.9	9.8	29.1	6.7	5.0	5.4	5.1
<14> フィーノホワイト	67.9	68.3	53.9	9.3	31.8	7.1	4.2	3.7	5.8
<15> PFダブルスノー	79.2	80.3	64.4	8.7	33.0	7.1	4.3	3.6	8.4

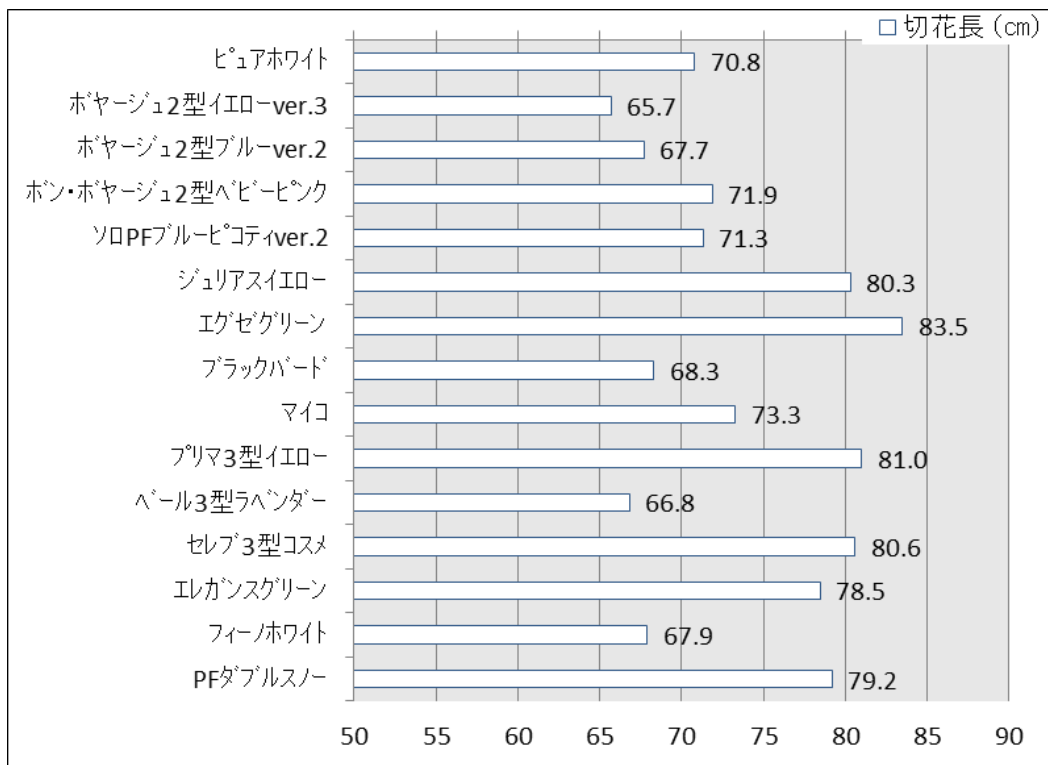


図1 切花長の比較

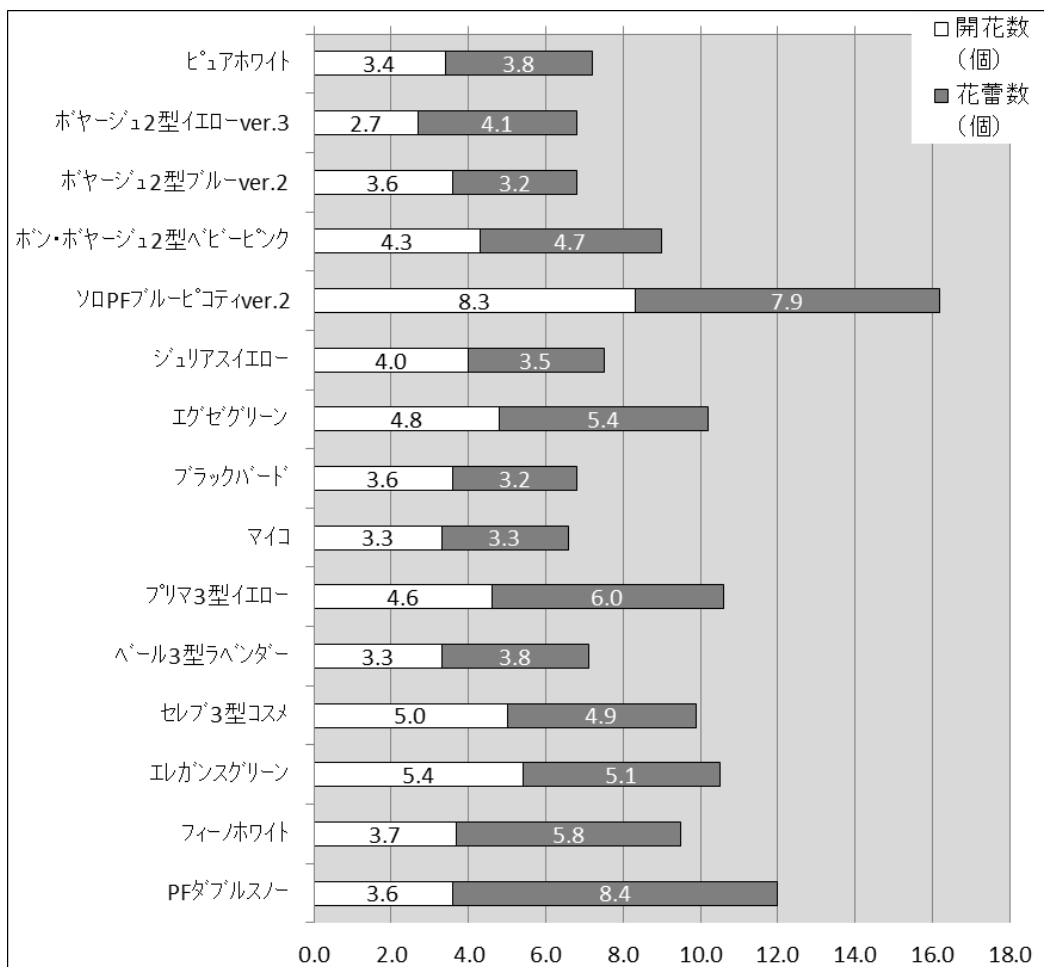


図2 開花数+花蕾数の比較



〈1〉ピュアホワイト



〈2〉ホヤージュ2型
イエロー ver. 3



〈3〉ホヤージュ2型
ブルー ver. 2



〈4〉ボン・ホヤージュ2型
ベビーピンク



〈5〉ソロ PF ブルーピコティ
ver. 2



〈6〉ジュリアスイエロー



〈7〉エグゼクグリーン



〈8〉ブラックハート



〈9〉マイコ



〈10〉プリマ3型イエロー



〈11〉ベール3型ラベンダー



〈12〉セラブ3型コスメ



〈13〉エレガンスグリーン



〈14〉フィンホワイト



〈15〉PFダブルスノー

花きの部 No. 2

項目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷) (新規：令和4年度～令和5年度)

- 1 目的 収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室6号 (165 m²：約50坪)
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 土耕栽培
 - は種年月日 令和4年3月2日
 - 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて約5週間冷蔵処理、
 - 定植年月日 その後通常育苗
 - 栽植距離 令和4年6月7日
 - 定植株数 ベッド幅60cm、株間10cm、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
 - 施肥量 3,100本/棟
N-P-K-Mg=1.44-0.12-5.60-2.24 kg/a
(基肥) アルガ215 (12-1-5-2) : 12.0 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 10.0 kg/a
ハイクト (Mg:40) : 5.0 kg/a
- 8) 使用資材
- 9) 遮光・遮熱期間
- 10) 収穫時期 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール
- 11) 薬剤散布 令和4年7月4日～9月12日
令和4年8月23日～9月12日
21回(成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 16区(1区10株、1区制)

2) 供試品種

No.	品種名	早晚性	花径	色	会社名
<1>	ビュアホワイト	中早生	大	白	(株)ミヨシ
<2>	ホヤージュ2型ブルー ver.2	中生	大	濃紫	(株)サカタのタネ
<3>	ホソ・ホヤージュ2型ハビロ	中生	大	白桃	(株)サカタのタネ
<4>	ジュリアスイエロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
<5>	ソロPFローズビコティ	中晩生	小	白桃	(株)サカタのタネ
<6>	エラストピンク	中晩生	中大	薄桃	カネコ種苗(株)
<7>	フィノホワイト	中晩生	中小	白	カネコ種苗(株)
<8>	M21-5	中晩生	中大	薄桃	(株)ミヨシ
<9>	マロ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
<10>	プリマ3型イエロー	中晩生	大	黄	タキイ種苗(株)
<11>	パール3型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<12>	シンパッション	中晩生	中小	赤	タキイ種苗(株)
<13>	レパ3型イエロー	中晩生	大	黄	住化農業資材(株)
<14>	エレガンスシャンパン	中晩生	大	橙	住化農業資材(株)
<15>	PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ
<16>	オブレット	晩生	大	赤	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

生育期序盤は株張りが良く順調であったが、6月以降の高温の影響もあり、生育状況、開花時期ともに前進気味であった。

病害虫については開花期以降にアザミウマが散見された。

(2) 開花

採花時期は、8月23日から9月12日、盛期は8月26日から9月8日です。

秋彼岸の需要期より若干早い結果となった。

(3) 切花品質

切花長では、「マイコ」で最も長く 86.7 cmであった。

茎径では、「エレスライトピンク」で最も太く 7.3mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

「マイコ」、「オーブレット」は草丈の確保が容易で、ボリュームは確保しやすいものの、上位節間の徒長に留意し灌水を控え、硬く仕上げる必要がある。

「エレスライトピンク」、「フィーノホワイト」、「M21-5」は、他品種に比べ茎が硬く太いこともあり、がっしりと締まった草姿であった。

「ソロ PF ローズピコティ」は、生育の揃いが良く草丈も十分確保できたものの、高温や低日照等の影響により色流れが発生する個体が散見された。

本作のような高温期中の作型では、やはり早晚性による開花時期や切花品質に与える影響は大きく、中晩生以降での品種選定、もしくは中生でも品種特性を考慮しての品種選定が重要である。

(4) 次年度以降の計画

継続

表 1 採花期

品種名	早晚性	花径	採花期	
			(開始～終了)	(盛期)
<1> ヒュアホワイト	中早生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<2> ホヤージュ2型ブルー-ver.2	中生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<3> ホン・ホヤージュ2型ベビーピンク	中生	大	8/23 ~ 8/29	8/26
<4> シュリアスイエロー	中生	大	8/24 ~ 8/31	8/26
<5> ソロPFローズピコティ	中晩生	小	8/26 ~ 9/2	8/30
<6> エレスライトピンク	中晩生	中大	8/27 ~ 9/6	8/31
<7> フィーノホワイト	中晩生	中小	8/27 ~ 9/6	8/31
<8> M21-5	中晩生	中大	8/23 ~ 8/29	8/26
<9> マイコ	中晩生	大	8/26 ~ 9/2	8/30
<10> プリマ3型イエロー	中晩生	大	8/28 ~ 9/8	9/6
<11> ベール3型ラベンダー	中晩生	大	8/25 ~ 9/5	8/31
<12> ミンクハーション	中晩生	中小	8/28 ~ 9/8	9/4
<13> セレブ3型イエロー	中晩生	大	8/26 ~ 9/2	8/29
<14> エレガンスシャンパン	中晩生	大	8/28 ~ 9/8	9/4
<15> PFダブルスノー	晩生	中	8/28 ~ 9/9	9/4
<16> オーブレット	晩生	大	8/30 ~ 9/12	9/8

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> ピュアホワイト	71.3	65.1	46.9	7.6	24.5	6.1	3.3	3.4	4.3
<2> ホヤージュ2型ブルー-ver.2	77.7	59.6	46.9	7.3	29.5	6.3	2.9	3.7	3.2
<3> ホン・ホヤージュ2型ヘビーク	75.1	62.4	46.9	8.0	33.5	6.4	3.7	3.7	4.8
<4> ジュリアスイロー	82.6	66.8	52.0	8.7	43.8	6.6	4.0	3.8	4.9
<5> ソロPFローズヒコティ	84.9	65.2	51.2	7.7	43.0	6.7	5.4	7.6	9.3
<6> エスライトヒンク	78.2	69.3	53.3	7.2	30.5	7.3	3.3	3.0	4.0
<7> フィーノホワイト	72.6	61.8	45.4	8.8	30.0	7.0	3.4	3.6	6.9
<8> M21-5	70.5	70.0	53.0	6.8	26.5	7.1	3.1	3.7	5.8
<9> マイコ	86.7	71.4	48.9	8.1	37.8	6.9	2.6	2.7	3.6
<10> プリマ3型イエロー	80.0	71.3	54.3	8.0	33.3	6.8	3.8	3.5	5.4
<11> パール3型ラベンダー	77.7	68.6	52.2	7.5	34.4	6.0	2.8	3.3	3.7
<12> ミルクパッション	74.6	62.3	46.6	7.1	21.9	6.2	3.4	3.7	5.1
<13> セレブ3型イエロー	80.8	66.4	51.6	8.5	37.5	6.7	3.8	3.6	6.2
<14> エレガンスシャンパン	77.6	67.1	51.9	7.9	28.6	6.4	3.9	3.4	6.1
<15> PFダブルスノー	80.3	78.4	63.6	8.6	37.8	7.2	4.6	3.7	6.6
<16> オープレット	83.6	78.7	63.5	7.7	43.7	7.1	3.9	4.1	6.0

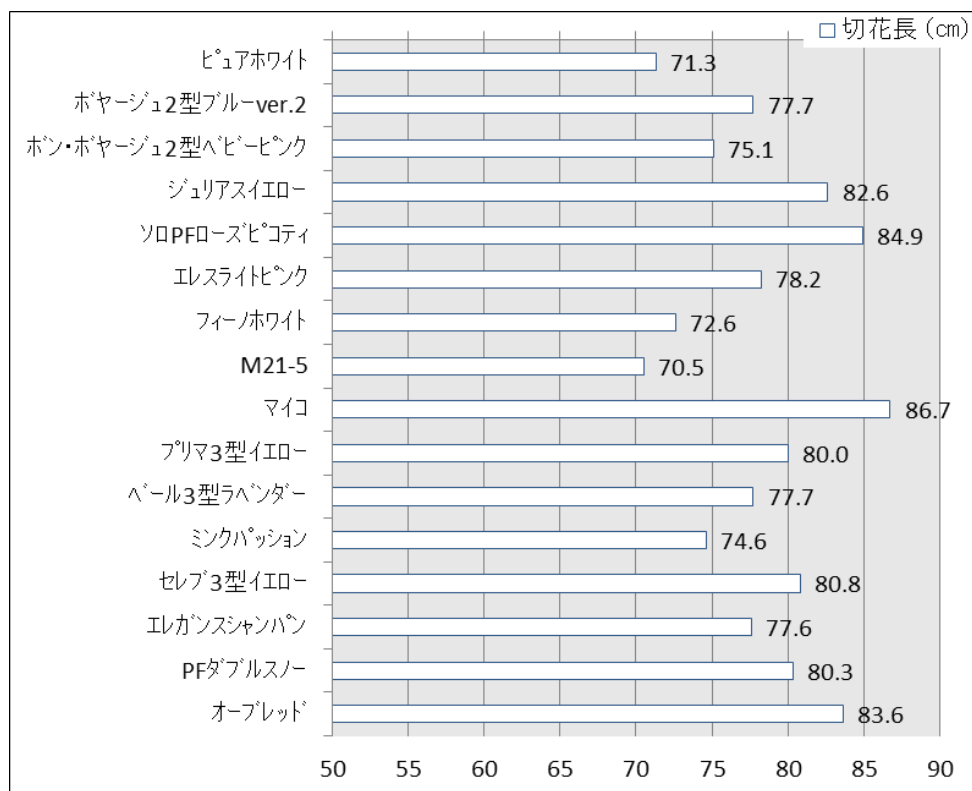


図1 切花長の比較

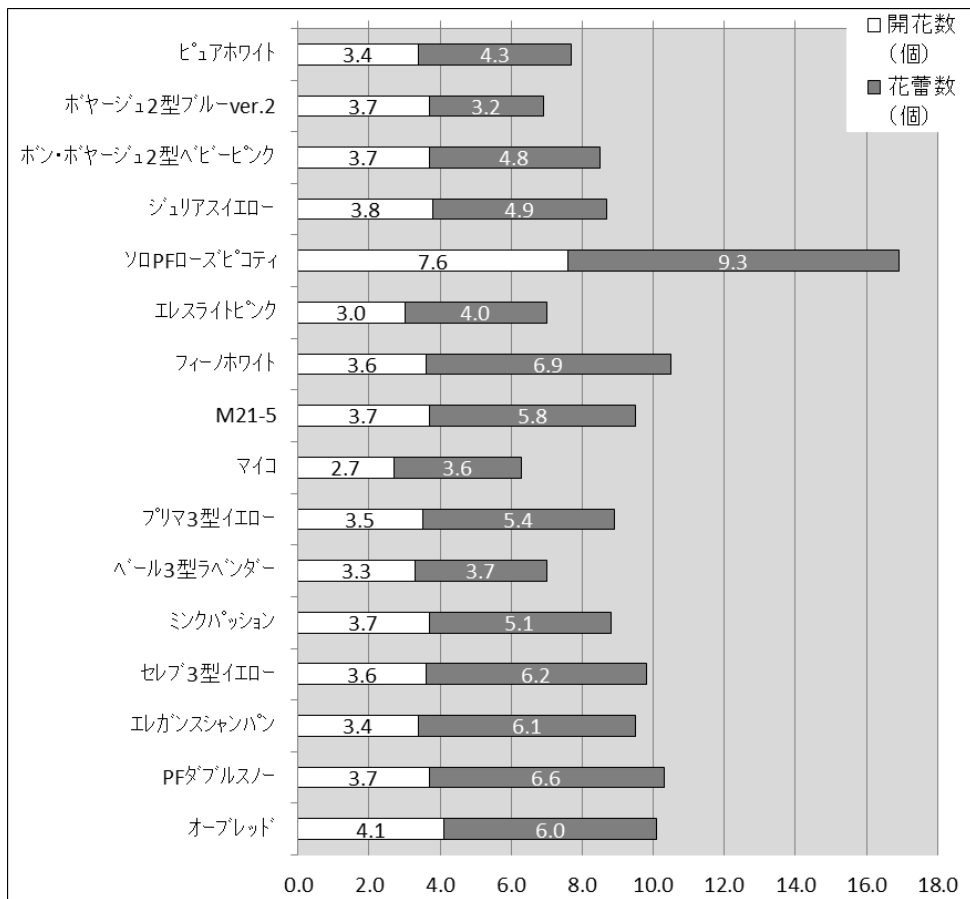


図2 開花数+花蕾数の比較



〈1〉 ピュアホワイト



〈2〉 ホヤージュ2型ブルー
ver.2



〈3〉 ボン・ホヤージュ2型
ベビーピンク



〈4〉 ジュリアスイロー



〈5〉 ソロ PF ローズ ピコティ



〈9〉 マイコ

〈6〉 エスライトピンク



〈10〉 プリマ3 型イエロー

〈7〉 フィーノホワイト



〈11〉 ベール3 型ラベンダー

〈8〉 M21-5



〈12〉 ミンパッション



〈13〉 セラブ 3 型イエロー



〈14〉 エガンスシャンパン



〈15〉 PF ダブルスノー



〈16〉 オブレット

花きの部 No. 3

項目：栽培技術調査

調査名：トルコギキョウの赤色 LED 電照栽培技術調査(9 月出荷) (継続：令和 3 年度～令和 4 年度)

1 目的 トルコギキョウの赤色 LED 電照処理により開花抑制が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

(1) 調査場所 ガラス温室 6 号 (165 m² : 約 50 坪)

(2) 耕種概要

- 1) 栽培方法 土耕栽培
 2) は種年月日 令和4年3月2日
 3) 育苗方法 セルトレイに播種、吸水後、5℃の暗黒下にて約5週間冷蔵処理、その後通常育苗
 4) 定植年月日 令和4年6月7日
 5) 栽植距離 ベッド幅60cm、株間10cm、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
 6) 定植株数 3,100本/棟
 7) 施肥量 N-P-K-Mg= 1.44-0.12-5.60-2.24 kg/a
 (基肥) アルガ215 (12-1-5-2) : 12.0 kg/a
 8) 使用資材 硫酸加里 (K:50) : 10.0 kg/a
 ハイクト (Mg:40) : 5.0 kg/a
 9) 電照期間 白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット、メガクール、赤色LEDライト (620nm~630nm)
 調査区① 無電照
 10) 収穫時期 調査区② 令和4年6月7日~9月16日
 11) 薬剤散布 ※16:00~8:00 16時間電照
 令和4年8月24日~9月16日
 21回(成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 14区(1区10株、1区制)

No.	品種名	早晚性	花径	花色	会社名
<1>	ジュリアスイロー	中生	大	黄	カネコ種苗(株)
<2>	ソロPFローズビコティ	中晩生	小	白桃	(株)サカタのタネ
<3>	マイロ	中晩生	大	白	タキイ種苗(株)
<4>	パール3型ラベンダー	中晩生	大	薄紫	タキイ種苗(株)
<5>	エレガンスジャン	中晩生	大	橙	住化農業資材(株)
<6>	PFダブルスノー	晩生	中	白	(株)サカタのタネ
<7>	オブレット	晩生	大	赤	(株)サカタのタネ

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果

開花時期は、いずれの品種においても赤色LED電照区が遅く、最大で7日程度の差が見られた。切花品質においても赤色LED電照区が優れ、電照の効果が確認された。

- (2) 生育

9月出荷作型の品種比較調査結果と同様に、生育期序盤は株張りが良く順調であったが、6月以降の高温の影響もあり、生育状況、開花時期ともに前進気味であった。

病害虫については開花期以降にアザミウマが散見された。

- (3) 開花

採花時期は、8月24日から9月16日、盛期は8月26日から9月14日となった。いずれの品種においても赤色LED電照区の開花が遅く、最大で7日程度の差が見られた。

- (3) 切花品質

切花長では、全調査区で70cmを超え、また、全ての品種で赤色LED電照区が無電照区に比べ長い結果となった。茎径、開花数及び花蕾数の合計等についても同様に赤色LED電照区が優れた結果となった。

また、本年は夏場の高温や日照の変動が大きかったために、ブラスチングの発生が散見される品種があったものの、赤色LED電照区は無電照区に比べ発生が少ない傾向にあった。

(4) 調査期間 2 箇年の結果

開花時期については、赤色 LED 電照区が総じて遅く、開花抑制効果が確認された。切花品質においても、概ね各項目で赤色 LED 電照区が優れた結果となり、品質向上も期待できる結果となった。また、無電照区と比べるとブラスチングの発生が少ない傾向にあった。

ただし、開花抑制・切花品質向上効果は品種によって異なり、晩生の品種ほどより効果が高い傾向であったから、本技術を活用する場合は、早晩性を踏まえたうえで品種の選定をする必要がある。

(5) 次年度以降の計画
完了

表 1 採花期

品種名	電照	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
〈1〉 シュリアスイエロー	無電照	8/24 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	8/30 ~ 9/ 8	9/ 5
〈2〉 ソロPPローズ [®] ヒコティ	無電照	8/26 ~ 9/ 2	8/30
	赤色LED	8/31 ~ 9/12	9/ 6
〈3〉 マイコ	無電照	8/26 ~ 9/ 2	8/30
	赤色LED	9/ 1 ~ 9/12	9/ 8
〈4〉 ヘル3型ラベンター	無電照	8/25 ~ 9/ 5	8/31
	赤色LED	9/ 5 ~ 9/12	9/ 7
〈5〉 エレガ [®] ンスシャンパン	無電照	8/28 ~ 9/ 8	9/ 4
	赤色LED	9/ 6 ~ 9/14	9/ 9
〈6〉 PFタ [®] ブルスノー	無電照	8/28 ~ 9/ 9	9/ 4
	赤色LED	9/ 6 ~ 9/16	9/14
〈7〉 オブレット [®]	無電照	8/30 ~ 9/12	9/ 8
	赤色LED	9/ 7 ~ 9/16	9/14

表 2 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
〈1〉 シュリアスイエロー	82.6	66.8	52.0	8.7	43.8	6.6	4.0	3.8	4.9
	電照区	83.0	68.1	52.9	8.4	39.7	6.9	3.7	3.6
〈2〉 ソロPPローズ [®] ヒコティ	84.9	65.2	51.2	7.7	43.0	6.7	5.4	7.6	9.3
	電照区	88.1	73.6	57.4	8.2	43.3	6.9	5.7	7.6
〈3〉 マイコ	86.7	71.4	48.9	8.1	37.8	6.9	2.6	2.7	3.6
	電照区	91.1	74.1	59.2	8.8	41.9	7.0	3.1	2.8
〈4〉 ヘル3型ラベンター	77.7	68.6	52.2	7.5	34.4	6.0	2.8	3.3	3.7
	電照区	81.0	67.7	52.7	7.8	33.3	6.5	3.1	3.5
〈5〉 エレガ [®] ンスシャンパン	77.6	67.1	51.9	7.9	28.6	6.4	3.9	3.4	6.1
	電照区	80.2	72.4	55.0	7.9	30.0	6.6	3.8	3.7
〈6〉 PFタ [®] ブルスノー	80.3	78.4	63.6	8.6	37.8	7.2	4.6	3.7	6.6
	電照区	83.5	79.1	57.7	8.6	40.3	7.2	4.5	3.4
〈7〉 オブレット [®]	83.6	78.7	63.5	7.7	43.7	7.1	3.9	4.1	6.0
	電照区	87.9	79.1	63.2	8.2	39.7	7.1	3.9	3.7

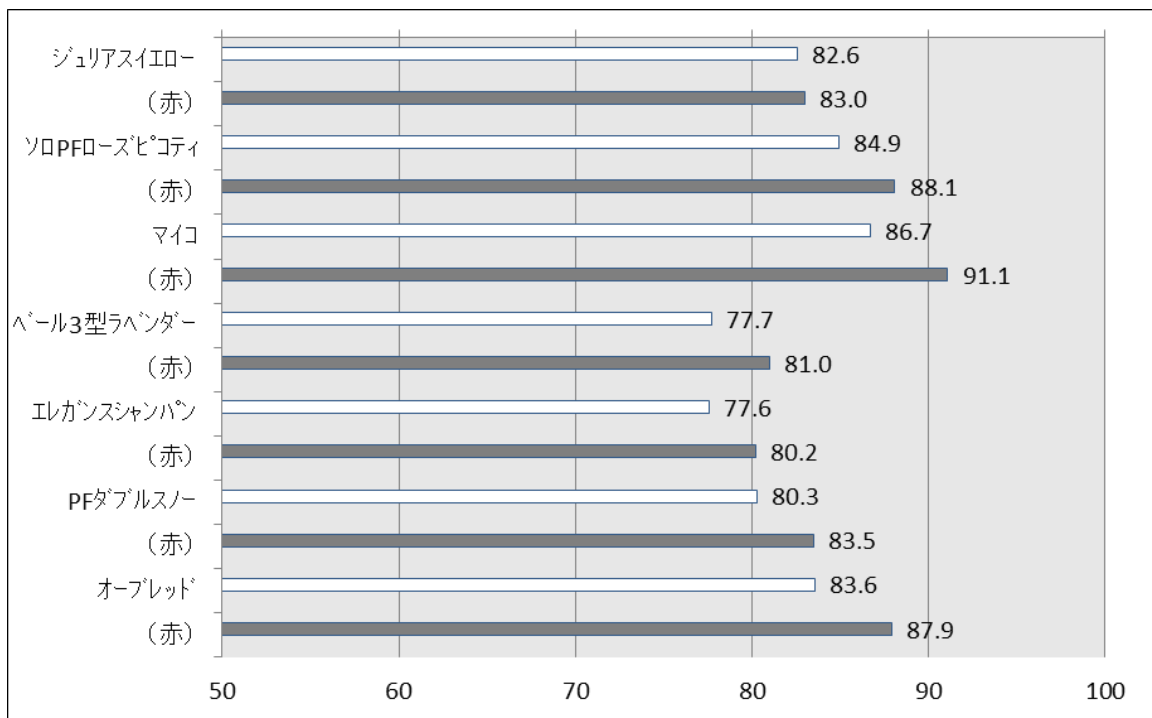


図1 切花長の比較 (cm)

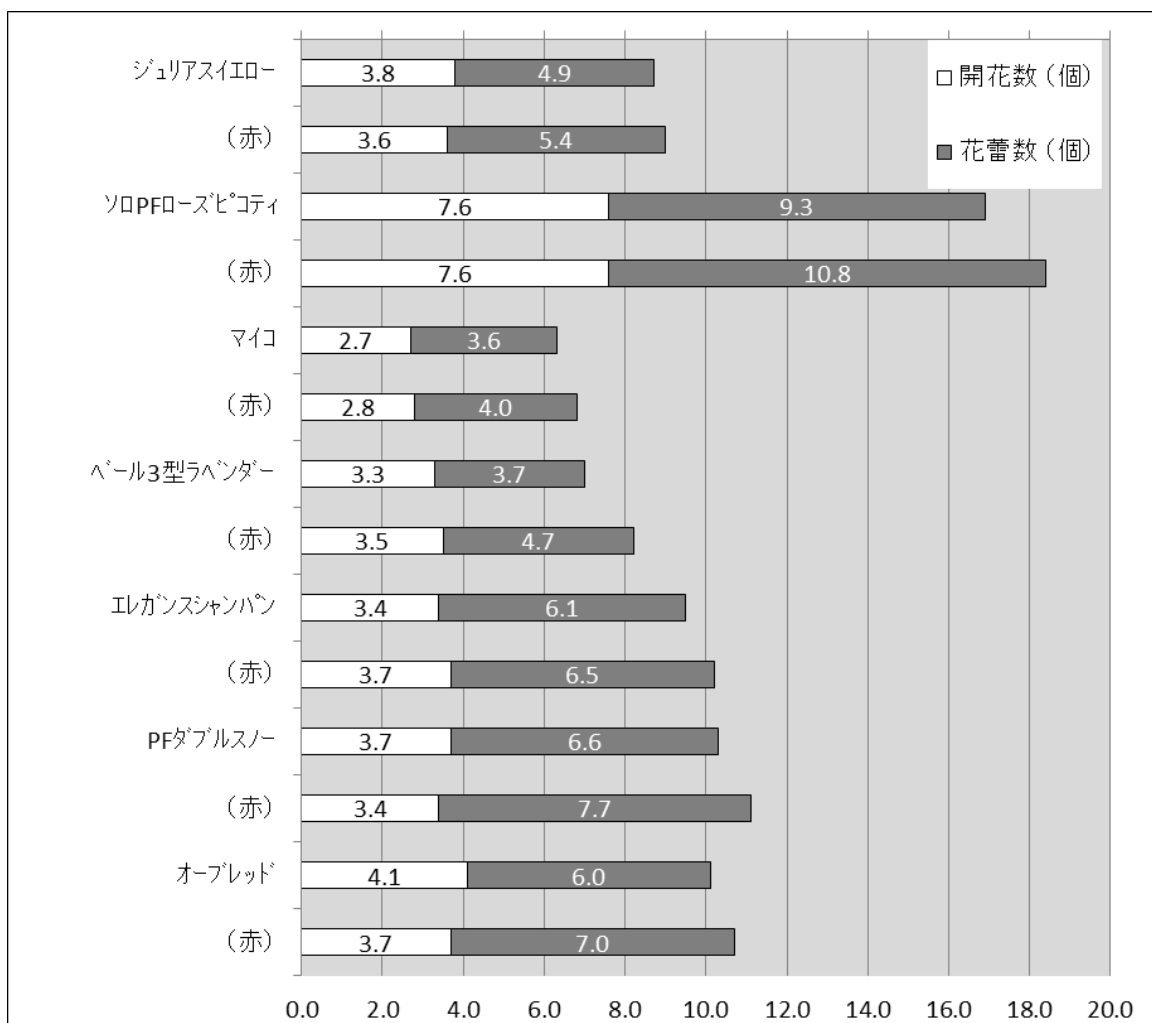


図2 開花数+花蕾数の比較

○令和3年度調査結果

表3 採花期

品種名	電照	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
<1> マキアホリト	無電照	8/21 ~ 8/25	8/24
	赤色LED	8/24 ~ 9/ 3	8/31
<2> シュリアスイエロー	無電照	8/23 ~ 8/31	8/25
	赤色LED	8/27 ~ 9/ 3	8/31
<3> ソロPFローズ [®] ヒコティ	無電照	8/24 ~ 9/ 3	8/31
	赤色LED	8/27 ~ 9/ 8	9/ 3
<4> 海しずか	無電照	8/23 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	9/ 2 ~ 9/10	9/ 7
<5> セミファイナルローズ [®]	無電照	8/27 ~ 9/ 6	8/31
	赤色LED	9/ 2 ~ 9/10	9/ 7
<6> ラルコ [®] マリン	無電照	8/24 ~ 8/31	8/26
	赤色LED	8/30 ~ 9/ 8	9/ 3
<7> PFタ [®] ブルスノー	無電照	8/25 ~ 9/ 3	8/27
	赤色LED	8/31 ~ 9/ 8	9/ 6

表4 切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	節数 (節)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	着蕾側枝数 (本)	開花数 (個)	花蕾数 (個)
<1> マキアホリト	71.9	53.5	40.3	7.1	45.7	6.6	3.6	3.8	7.9
	電照区	72.6	51.1	38.6	7.1	48.9	6.9	3.8	3.6
<2> シュリアスイエロー	70.9	60.0	45.2	6.7	44.8	6.1	3.4	3.5	6.6
	電照区	72.4	61.8	46.7	6.8	47.4	6.3	3.6	3.5
<3> ソロPFローズ [®] ヒコティ	72.6	51.8	38.4	7.8	47.0	5.2	6.1	4.6	10.1
	電照区	80.0	60.6	47.6	8.1	48.5	5.6	6.3	4.8
<4> 海しずか	70.0	55.3	41.6	7.0	48.5	5.8	4.0	3.6	5.9
	電照区	82.3	66.4	52.5	7.6	52.9	6.4	4.0	3.4
<5> セミファイナルローズ [®]	85.2	64.5	50.3	8.3	51.2	7.2	3.4	3.4	6.1
	電照区	93.1	71.8	54.5	8.5	56.6	7.5	3.7	3.6
<6> ラルコ [®] マリン	81.6	62.7	46.9	8.3	50.8	6.6	3.7	3.3	6.2
	電照区	92.4	71.9	55.2	8.5	57.2	6.8	3.9	3.6
<7> PFタ [®] ブルスノー	82.5	60.5	44.9	7.4	47.9	6.0	3.3	3.8	6.7
	電照区	87.6	65.1	50.1	7.8	54.4	6.4	3.6	3.9

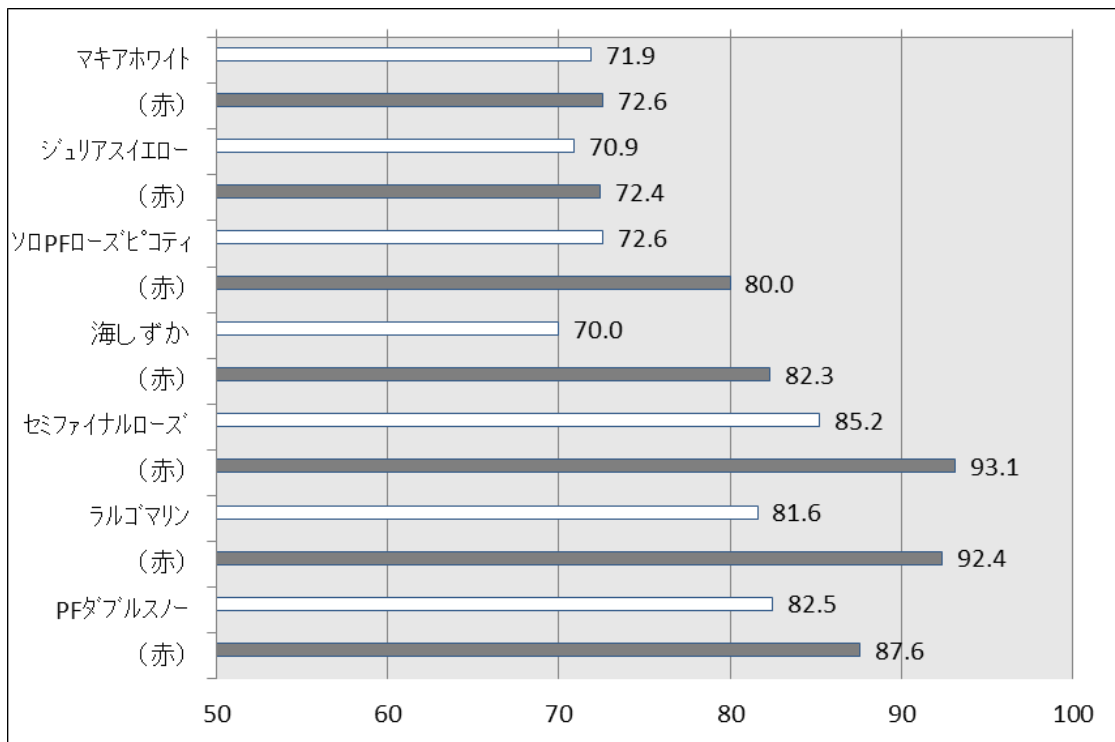


図3 切花長の比較 (cm)

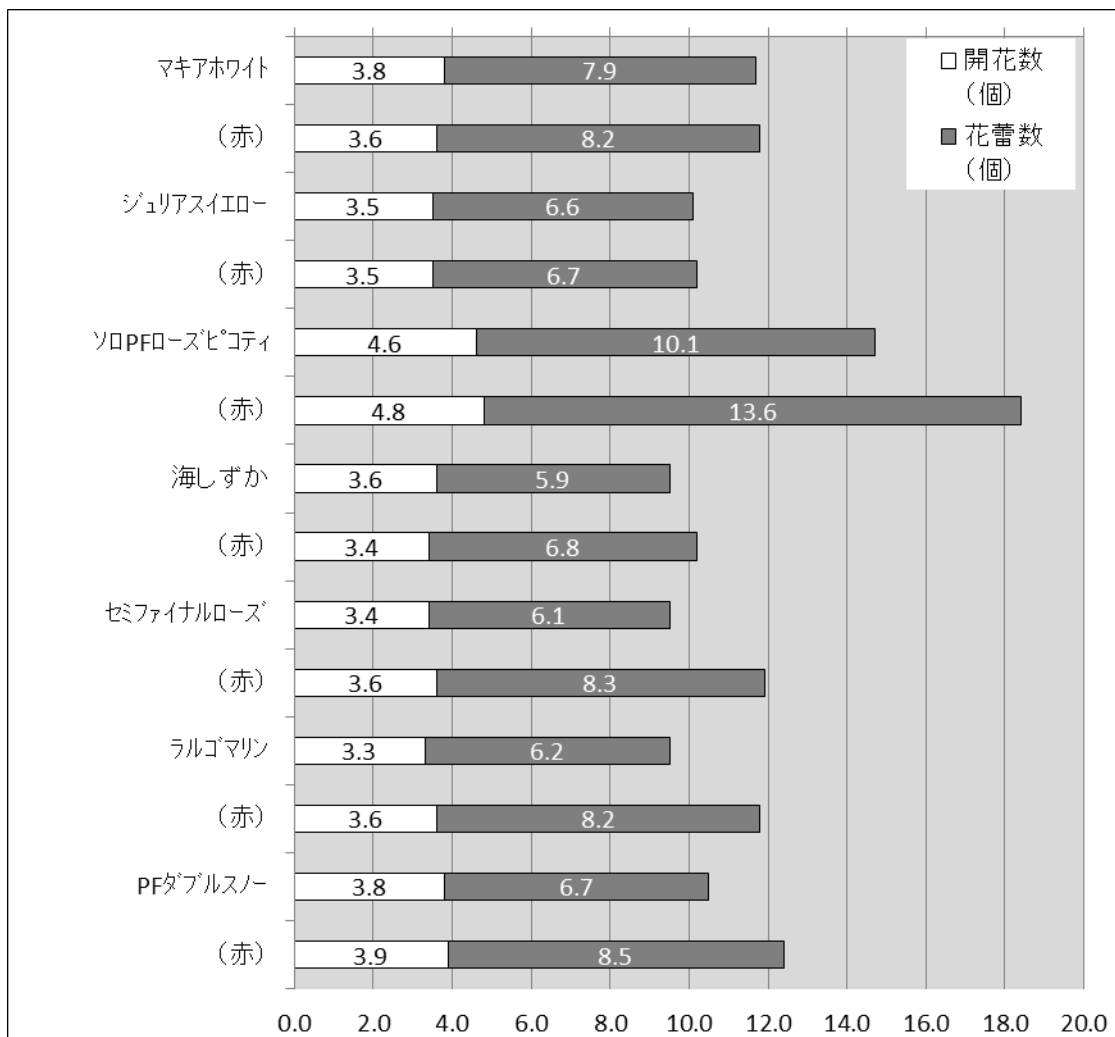


図4 開花数+花蕾数の比較

花きの部 No. 4

項目：栽培技術調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（継続：令和 2 年度～令和 6 年度）

1 目的 カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 9 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
- 栽培方法 土耕栽培
 - は種年月日 令和 3 年 9 月 30 日
 - 定植年月日 令和 3 年 11 月 12 日
 - 仕立て法 調査区②令和 3 年 12 月 28 日に摘心
調査区①、③、④令和 4 年 1 月 6 日に摘心
 - 栽植距離 ベッド幅 60 cm、株間 20 cm、条間 40cm、2 条植え(中 1 条抜き)
 - 定植株数 540 株/棟
 - 施肥量 N-P-K=1.00-1.05-1.80 kg/a
(基肥) ビオン 068 (10-6-8) : 10.0 kg/a
パワーリン (P:30) : 1.5 kg/a
硫酸加里 (K:50) : 2.0 kg/a
 - 使用資材 バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト (620nm~630nm)、
 - 電照期間 20cm×3 目フラワーネット
調査区① 無電照
調査区② 令和 3 年 11 月 12 日 (定植後) ~収穫期まで
調査区③ 令和 4 年 1 月 6 日 (摘心後) ~収穫期まで
調査区④ 令和 4 年 2 月 1 日 ~収穫期まで
 - 収穫時期 いずれも 22 : 00 ~ 2 : 00 (暗期中断)
 - 保温 令和 4 年 4 月 15 日 ~ 5 月 30 日
内カーテン (令和 3 年 11 月 12 日 ~ 令和 4 年 4 月 10 日)
 - 薬剤散布 パスライトトンネル (令和 3 年 11 月 12 日 ~ 令和 4 年 3 月 11 日)
15 回 (成分回数)
- (3) 調査区の構成
- 調査区 16 区 (1 区 5 株、1 区制)
 - 供試品種
- | No. | 品種名 | 花色 | 会社名 |
|-----|-------------------|----|-----------|
| <1> | チャンピオンホワイト | 白 | (株)サカタのタネ |
| <2> | チャンピオンスカイブルー | 青紫 | (株)サカタのタネ |
| <3> | チャンピオン IQ ピンク | 桃 | (株)サカタのタネ |
| <4> | チャンピオン IQ ディープブルー | 濃紫 | (株)サカタのタネ |
- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

- (1) 昨年度の結果
全品種で、電照を開始した順に伴い開花時期も早まった。切花品質においては無電照区が最も優れた結果となった。
- (2) 本年度の結果
- 生育
採花期にアザミウマの発生が散見されたものの概ね順調な生育であった。
生育期前半は灌水を多めに行い株張りを促進させ、後半は灌水を控えめにしたことにより、茎が硬く仕上がり首曲がりは見られなかったが、茎の空洞化の症状が見られ、全体の切花重の低下に影響したと考えられる。
栽培期間中の生育調査では、いずれの時点においても調査区②の生育が早いことが確認された。

2) 開花

開花は、全調査区の中で調査区②のチャンピオンホワイトが最も早く、採花時期は4月15日～4月25日、盛期は4月18日となった。

また、いずれの品種においても調査区②の採花時期が早く、調査区①が最も遅い結果となり、電照開始時期に関わらず赤色LEDによる開花促進効果が認められた。

(3) 切花品質

切花長では、調査区②以外は全品種80cmを超えた。また、全ての品種で調査区①が長い結果となった。

切花重では、全品種で調査区①が重かった。

茎径では、全品種で調査区①が太かった。

花蕾数では、全品種で調査区①が多かった。

花径では、電照の有無及び電照開始時期による大きな差は見られなかった。

(4) 考察

昨年度同様、採花時期については調査区②が総じて早い結果となったが、切花品質においては無電照の調査区①が優れていた。

今回の試験では、他品種に比べ草勢が強いチャンピオンシリーズに限定した品種構成としたところ、調査区②でもある程度の切花品質を確保することができた。また、調査区ごとの花径の差はほぼ見られなかったことから、電照による花の大きさ等への影響は無いことが確認された。

また、早くから電照を開始したほうが開花は早まるものの、切花品質は劣る傾向は変わらず、現時点で開花促進効果と切花品質の両面でバランスが良いのは、摘心後に電照を開始する調査区③であると考えられる。

今後も、電照開始時期や定植時期等について調査し、開花促進しつつ切花品質も向上できるよう検討していきたい。

(5) 次年度以降の計画

継続

表1 採花期

品種名	調査区	採花期	
		(開始～終了)	(盛期)
チャンピオンホワイト	調査区①	5/10～5/19	5/12
	調査区②	4/15～4/25	4/18
	調査区③	4/26～5/ 6	5/ 2
	調査区④	4/30～5/ 6	5/ 3
チャンピオンスカイブルー	調査区①	5/10～5/19	5/13
	調査区②	4/18～4/25	4/21
	調査区③	4/27～5/ 6	5/ 2
	調査区④	5/ 1～5/ 7	5/ 4
チャンピオンIQピンク	調査区①	5/13～5/23	5/20
	調査区②	4/25～5/ 4	5/ 1
	調査区③	4/30～5/ 7	5/ 3
	調査区④	5/ 3～5/11	5/ 8
チャンピオンIQディープブルー	調査区①	5/18～5/30	5/23
	調査区②	4/20～4/29	4/26
	調査区③	4/28～5/ 6	5/ 3
	調査区④	5/ 2～5/19	5/ 6

表 2 切花調査

品種名	電照	切花長 (cm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	花蕾数 (個)	花径 (cm)
チャンピオンホワイト	調査区①	110.9	84.4	50.1	8.7	70.8	19.5	4.8
	調査区②	78.8	53.6	44.7	6.8	50.3	13.1	4.9
	調査区③	84.2	66.5	44.6	7.2	61.6	14.7	5.3
	調査区④	95.2	74.4	49.9	7.5	70.9	17.4	5.2
チャンピオンスカイブルー	調査区①	85.4	69.2	45.0	8.5	57.5	17.0	4.4
	調査区②	76.6	41.2	42.4	6.4	48.0	9.2	4.9
	調査区③	81.8	50.5	47.1	6.8	58.9	11.6	5.3
	調査区④	82.2	55.8	46.1	7.4	61.5	15.8	5.3
チャンピオンIQピンク	調査区①	105.3	97.1	45.9	9.2	78.2	20.5	4.7
	調査区②	84.0	60.4	43.5	7.2	60.3	14.3	5.2
	調査区③	84.9	56.6	49.5	7.3	59.8	13.1	5.5
	調査区④	95.7	73.7	48.5	8.6	74.5	17.3	4.9
チャンピオンIQディープブルー	調査区①	92.2	79.7	47.0	9.1	74.0	17.6	5.0
	調査区②	81.3	52.3	45.3	6.8	56.6	13.3	5.2
	調査区③	80.5	50.3	46.0	7.6	49.1	9.9	4.8
	調査区④	90.6	71.9	45.8	8.5	68.6	15.2	5.3

花きの部 No. 5

項目：品種比較調査

調査名：ディスプレイマムの品種比較調査(8月出荷) (継続：令和3年度～令和4年度)

- 1 目的 今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスプレイマムについて、8月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス8号 (99 m² : 約30坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 土耕栽培
 - 2) 定植年月日 令和4年5月13日(直挿し)
 - 3) 栽植距離 ベッド幅80cm、株間10cm、条間10cm、6条植え(中2条抜き)
 - 4) 定植株数 3,600本/棟
 - 5) わい化剤処理 令和4年7月8日、26日 ビーナイン顆粒水溶剤1,000倍
 - 6) 施肥量 N-P-K-Mg=0.48-0.04-0.20-0.08 kg/a
(基肥) アルガ215(12-1-5-2) : 4.0 kg/a
 - 7) 使用資材 10cm×8目フラワーネット、黒マルチ
 - 8) 電照期間 令和4年5月13日～6月27日 22:00～3:00(暗期中断)
 - 9) シェード管理 令和4年6月27日～8月12日 17:30～6:30(11時間日長)
 - 10) 収穫時期 令和4年7月24日～8月12日
 - 11) 薬剤散布 28回(成分回数)

(3) 調査区の構成

- 1) 調査区 12区(1区10株、1区制)

2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	アビーフレーム	オレンジ	(株)デリアロールジャパン
<2>	マラケシュ	オレンジ	(株)デリアロールジャパン
<3>	ブレイク	ピンク	(株)デリアロールジャパン
<4>	クチュール	ピンク	(株)デリアロールジャパン
<5>	フォーキャスト	ダークピンク	(株)デリアロールジャパン
<6>	レトニック	ホワイト	(株)デリアロールジャパン
<7>	エビデンス	ホワイト	(株)デリアロールジャパン
<8>	アルベラ	ライトグリーン	(株)デリアロールジャパン
<9>	スカーター	グリーン	(株)デリアロールジャパン
<10>	フェゴダーク	レッド/イエロー	(株)デリアロールジャパン
<11>	レモンハット	ダークイエロー	(株)デリアロールジャパン
<12>	タンホーラ	ブロンズ	(株)デリアロールジャパン

- (4) 調査項目 開花、切花

3 結果の概要

(1) 生育

全品種において病害発生は見られなかったものの、発蕾期以降にハダニ類の発生が散見された。

7月11日から、脇芽かきを順次行った。

やなぎ芽及びやなぎ葉については、「マラケシュ」、「クチュール」、「フェゴダーク」の一部において発生が見られた。

(2) 開花

採花時期は、7月24日から8月12日となった。採花の盛期は7月28日から8月9日となり、全品種において盆前が採花盛期となった。

- (3) 切花品質
 切花長では、全品種で90cmを超え、「レドニック」で最も長く127.5cm、「フエゴ
 ダーク」で最も短く99.6cmとなった。
 切花重では、「フォーキャスト」で最も重く94.3gとなった。
 花首長では、「ブレイク」が1cm台となった。
 茎径では、「レドニック」、「スケーター」で最も太く7.6mmとなった
- (4) その他
 春先は天候が良く、気温が高く推移した影響もあり、全体的に生育が早く徒長し
 てしまう傾向にあったものの、「アビーフレーム」、「ブレイク」、「スケーター」は節
 間も伸びすぎず、草姿が整っていた。
 「アビーフレーム」、「ブレイク」、「タンボーラ」は、生育の揃いが良く、他の品
 種に比べロスが少なかった。
 耐暑性について、高温障害の影響は全体で見ると少なかったものの、「エビデン
 ス」においては本来の純白色ではなくクリーム色が目立つ個体が散見された。
 また、「クチュール」は生育中期頃から葉縁の黄化が見られ、原因は判然としない
 もの、生育環境に影響を受けやすい傾向がある品種であると考えられる。
- (5) 次年度以降の計画
 完了

表1 採花期

品種名	採花期	
	(開始～終了)	(盛期)
<1> アビーフレーム	8/ 5～ 8/10	8/ 8
<2> マラケシュ	7/24～ 8/ 2	7/28
<3> ブレイク	8/ 6～ 8/10	8/ 8
<4> クチュール	8/ 1～ 8/ 7	8/ 4
<5> フォーキャスト	8/ 3～ 8/ 8	8/ 5
<6> レドニック	7/24～ 8/ 2	7/28
<7> エビデンス	8/ 1～ 8/ 8	8/ 4
<8> アルベラ	7/31～ 8/ 4	8/ 3
<9> スケーター	8/ 5～ 8/10	8/ 7
<10> フエゴダーク	8/ 6～ 8/12	8/ 9
<11> レモンハット	8/ 4～ 8/ 9	8/ 6
<12> タンボーラ	8/ 1～ 8/ 8	8/ 5

表2 切花調査

	品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (cm)
<1>	アビ [®] フレーム	104.7	70.3	2.4	6.2	6.8
<2>	マラケシュ	118.3	78.5	4.1	7.1	8.4
<3>	ブレイク	125.6	77.1	1.6	7.0	6.7
<4>	クチュール	114.0	88.4	3.1	7.3	11.6
<5>	フォーキャスト	107.8	94.3	2.7	7.1	15.2
<6>	レド [®] ニック	127.5	79.1	3.7	7.6	12.0
<7>	エビ [®] デンス	118.6	76.0	2.5	7.3	9.9
<8>	アルベ [®] ラ	106.4	81.3	2.8	6.4	8.4
<9>	スケーター	104.9	92.9	2.3	7.6	13.2
<10>	フエコ [®] ダ [®] ーク	99.6	76.8	2.5	7.3	9.9
<11>	レモンハット [®]	110.4	60.7	2.4	6.7	5.8
<12>	タンボ [®] ーラ	106.4	78.0	2.2	6.6	8.5



<1> アビ[®]フレーム



<2> マラケシュ



<3> ブレイク



<4> クチュール



<5> フォーキャスト



<6> レド[®]ニック



<7> エビ[®]デンス



<8> アルベ[®]ラ



<9> スケーター



<10> フエコ[®]ダ[®]ーク



<11> レモンハット[®]



<12> タンボ[®]ーラ